



外国出張報告書

平成 26 年 9 月 12 日

1. 出張国名 ラオス、 フィリピン
2. 出張月 平成 26 年 7 月-8 月
3. 出張目的 a) 雨期における水路送水効率算出のための観測および田面湛水のための必要水量の観測：C
 b) 雨期における地下水窒素汚染調査およびサトウキビ栽培圃場における基肥溶脱調査：A

4. 成果の概要

インドシナ農山村プロジェクトでは、ラオス国ナムアン村において、雨期におけるため池貯留水の有効利用の検討を目的に、水田用水量の調査を実施した。本調査では、水田用水量の構成要素である粗用水量算出のため、用水路で流量測定を実施し、測定区間における水路送水効率を算出した。また、調査対象流域の水田における田越し灌漑の流路を、踏査により明らかにした。そして水田の必要水量について、1筆の水田で減水深測定を実施した。既設の気象観測機器・水文観測機器からデータを回収した。

島嶼環境保全プロジェクトでは、フィリピン国ネグロス島のサトウキビ圃場において、窒素肥料溶脱の実態解明を目的に溶脱のモニタリングを実施した。

モニタリング手法として、

- ①ポーラスカップ・パンライシメータ・ウィックサンプラーによる土壌溶液の採水・分析、
- ②重窒素肥料施肥による肥料利用効率の算出、の2手法を用いた。土壌溶液の分析にはRQフレックスを用いて、現場で測定を実施した。

また観測井を掘削し、地下水の水質調査を実施した。